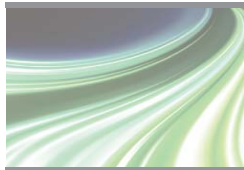




**IAIA**  
International Association  
for Impact Assessment

インパクトアセスメントに関わる専門家、一般市民、意思決定者が守るべき倫理的な基本ルール(Social contract)は、「インパクトアセスメントは多面的側面から実施すべきであり、偽りや意図的なバイアスをかけてはならない」ことである。



著者:

Richard Fuggle  
with significant input from  
Frank Vanclay  
Rita Hamm  
Charlotte Bingham

This document was translated into Japanese by Akiko Urago. The original document can be found at [www.iaia.org](http://www.iaia.org). IAIA has not reviewed this translation for accuracy.

**FASTIPS**

No. 2 | April 2012

## インパクトアセスメントの倫理

インパクトアセスメントの専門家は、インパクトアセスメントの根本原則を軽視するプレッシャーにさらされるため、インパクトアセスメントを実施するうえで、倫理を尊重することは非常に重要である。インパクトアセスメントを正しく行うことにより、意思決定者と被影響者に、バイアスのない正確で十分な量の情報を伝えられるようになるのである。インパクトアセスメントは、持続可能性や生物多様性と同様、広く社会や健康の権利についても言及している。すべての側面への配慮と人権及び人間の尊厳を尊重することは、アセスメントの礎となる。しかし、ステークホルダー(事業者、雇用主、援助供与機関、従業員)は、時に自分たちの立場を強調するため、インパクトアセスメントの一部の要素を重視したり軽視したりしやすい。アセスメントの結果を歪曲しようとするプレッシャーに逆らうことは、契約や仕事を失うことにつながる可能性がある。アセスメントの費用を負担する側は、完全でバランスのとれたインパクトアセスメントを行うのに十分な資金の提供を拒み、専門家に倫理的判断を強いることになる。このFastipsは、インパクトアセスメントの専門家に対して、「現在の世代と将来の世代の双方を考慮する義務があり、公平かつ持続可能で正確な意思決定を促すことによって社会の利益に資するアセスメントに従事していること」を認識してもらうことを意図している。

### インパクトアセスメントの倫理的ジレンマの例

インパクトアセスメントの専門家は以下のようなときに倫理的ジレンマに直面する

- アセスメントの仕様書(TOR)が調査・評価を理不尽に束縛する
- 発注者からのプレッシャーによって(統合的であるべき)アセスメントのスコープ(調査・予測の内容)が狭まり、結果に悪影響を及ぼす
- 事業主、雇用主または影響を受ける団体が、アセスメントに関わることを拒否する
- 予算不足によって、適切な分析を行うことやすべてのステークホルダーの適切な関与が妨げられる
- アセスメントに与えられた時間が不十分で、きちんとした調査・評価ができない。
- ある特定の専門家による調査が行われないよう要請がある。
- ある特定の項目について、強調、無視、非公開などの指示が出る。
- インパクトアセスメント報告書案に対し、執筆者(assessor)が承認しないと思われるような解釈変更、用語の書き換え、強調が指示される。
- 雇用者、再委託コンサルタント、政府機関、NGO、援助機関、一般市民による不正確な報告・記載が判明する。
- 事業が承認されることが報酬の支払い条件になっている。
- 完成したアセスメントに対し、意図的に好意的もしくは批判的な審査をするよう要求される。
- 事業と利害関係にある人物が、アセスメント業務を依頼される。

### そのようなジレンマに陥った際すべきこと

- 自らの困惑を抑圧したり隠したりせず、自分の上司と相談するか、自分が責任者である場合は信頼し尊敬する知人や助言者に相談する。
- 困惑の原因を作り出した相手に、IAIAの専門家としての行動規範(IAIA Code of Professional Conduct)を示し、彼らの要求、期待、思い込みが、あなたの専門家としての倫理規範に合致しないことを説明する。
- 専門家としての行動規範に沿わないものが残るような妥協を受け入れたい気持ちに負けてはならない。誠実で正確かつ正直なアセスメントをする人物であるという評価を得るのは時間がかかるが、評判を落とすのは一瞬である。

## 理解すべき5つの重要なこと

1. インパクトアセスメントの専門家、市民社会、意思決定者が守るべき基本ルール(Social contract)は、[a. インパクトアセスメントは多面的側面から実施されるべきであり、偽りや故意のバイアスがあってはならない] と [b. インパクト・アセスメントは、(負の)影響を受ける市民が意思決定にかかわる権利を尊重する] である。
2. 政策・計画(プラン)・プログラム・事業が与える可能性のある影響を公平に表現する際、専門家個人の信念や好みに左右されてはならない。市民、雇用主、意思決定者の損失よりも個人の利益を優先させるべきではない。
3. インパクトアセスメントの専門家は、人間活動が生態系や社会に影響を与えたのちも持続可能かつ公平な状態となるような道を探求すべきであり、未来の世代の権利と利益に留意する義務がある。社会の様々なグループが様々な面で利益や損害を被ることを考慮しつつ、資源の公平なアクセスと利用を推進し追求すべきである。
4. インパクトアセスメントは、社会のいかなる部分の人権侵害も回避し、暴力、嫌がらせ、脅し、過度な力を許してはならない。
5. インパクトアセスメントの専門家は、自身の知識と技術を維持し高めるとともに、同僚の専門性の向上を支援し、専門家になる可能性のある人たちの望みを育てることによって、自らの専門性を磨いていかなければならない。

## 実行すべき5つの重要なこと

1. 自分自身、雇用主、そして市民に対し、オープンで正直であること。自分の専門的な仕事を、偽りや意図的なバイアスなく、多面的にかつ専門的に実行すること。
2. 教育やトレーニング、経験を積んだ自分に能力のある分野に関してのみ専門的な仕事をする。もし、自分の専門外の仕事を依頼された場合は、あなたに不足している専門性を持った人たちと共に仕事をするか、再委託すること。
3. あなたの専門的な活動の中で、持続可能性や公平性が確保されるよう留意すること。
4. アセスメントにおいて、適切な代替案の除外、特定の代替案の優先、事実のみ消しや歪曲、決定済みの結論に導くようなバイアスを求められた場合は、仕事を断ること。
5. あなた個人の利益と専門家としての業務に利害関係が疑われる可能性がある場合は、関連する情報をすべて公開すること。

更に知識を深めたい方は以下のサイトへ  
[www.iaia.org/publications-resources](http://www.iaia.org/publications-resources)  
Downloadable Publications > FasTips

提言もしくはFasTipに加えてほしいトピックがあれば、FasTipsシリーズの編集者である Maria Partidário (mpartidario@gmail.com)に連絡してください。

### さらに深く理解するための文献資料

1. IAIA Professional Code of Conduct and Ethical Responsibilities. [www.iaia.org/about/mission-vision-values.aspx](http://www.iaia.org/about/mission-vision-values.aspx)
2. Baines J.T. & Taylor C.N. 2011. "Ethical issues and dilemmas," in Vanclay F. & Esteves, A.M. (eds) *New Directions in Social Impact Assessment: Conceptual and Methodological Advances*. Cheltenham: Edward Elgar. 96-113.
3. Chadwick R. (ed) 1998. *Encyclopaedia of Applied Ethics*, Vols. 1-4. Academic Press: San Diego, especially chapters by:
  - Airaksinen T. "Professional Ethics"
  - Spier R. E. "Science and Engineering Ethics, Overview"
  - Jarvela M. et al. "Environmental Impact Assessment"
4. Fisher, Robert 2008. Anthropologists and social impact assessment: Negotiating the ethical minefield. *The Asia Pacific Journal of Anthropology* 9(3): 231-242. <http://dx.doi.org/10.1080/14442210802251670>
5. Howitt, Richard 2005. The importance of process in social impact assessment: Ethics, methods and process for cross-cultural engagement. *Ethics, Place & Environment* 8(2): 209-221. <http://dx.doi.org/10.1080/13668790500237336>
6. Vanclay F. 2003. International Principles for Social Impact Assessment. *Impact Assessment & Project Appraisal* 21(1): 5-11.